

アグリ | ワーク | ポイント



新茶まで
あと少し！

茶指導販売課 福手 裕三

新茶シーズンを前に

3月に入ると「いよいよ新茶シーズン」という気分になってきます。この時期は、特に防霜施設の点検が重要な作業です。また、遅霜対策や施肥時期を逃さないためにも、天気予報に関心を持つようにしてください。

防霜対策

防霜ファンの柱の傾きやサーモスタットが設定温度で作動するか、ファンの角度や回転は正常かなどを点検してください。また、更新時期にきている古い防霜ファンも多いと思いますので、特に念入りに点検しましょう。

スプリンクラーは、管の破損や目詰まり、ポンプの点検をしましょう。散水量は、10aあたり3〜4tで、茶株面温度2℃から散水を始め、日の出後30分くらいまで継続してから停止してください。茶株面温度は外気よりも3〜4℃低いので注意しましょう。

病害虫の防除

カンザワハダニ

越冬明けのこの時期になると、カンザワハダニは茶株南面の暖かい場所に集まります。すそ部を中心に葉裏をよく観察してみましょう。茶園によって発生状況が違うので、各地区の調査結果を確認し、効率の良い防除を行ってください。

休眠中の雌成虫の体色は朱色ですが、休眠から覚醒すると暗赤色になり、産卵を始めます。このようなハダニは、日当たりの良いうね部の葉裏に生息しているので、多くなったら薬剤がしっかりとかかるよう、丁寧に散布してください。

バロックフロアブル 2000倍（収穫14日1回）

夏期の干ばつが一番茶に与える影響

昨年は、7月の記録的な多雨に加え、8月に極端な干ばつがありました。干ばつが、茶の生育にどのような影響を与えるか整理してみました。

・新芽生育の異常…萌芽の遅れ、芽数の減少、生育の不揃い

・新芽の特性の異常…葉肉薄、出開きが早い、歩留まりが悪い、上乾きになりやすい

・更新処理をしても樹勢が回復しにくい
などがあげられます。春期の対策などは難しいですが、更新の検討やかん水の重要性などを意識しながら、今後の茶園管理をしてください。